三卷之内

往生要集卷之下

目録

第一　聖衆来迎楽〻事

第二　蓮花初開楽〻事

第三　分相神通楽〻事

第四　妙境界楽〻事

第五　快楽無退楽〻事

京田組　吉田長蔵　青山村

第六　引接結縁楽〻事
第七　聖衆俱会楽〻事
第八　見仏聞法楽〻事
第九　隨心供仏楽〻事
第十　増益仏道楽〻事

目録終

往生要集巻之下

極楽物語

第一聖衆来迎楽事

○それ聖衆来迎のたのしみとは臨終の業乃人命の尽くるときに乃二河ぞうさりける風と火のごとくにうごくことつうさどるあれば善くをかくしてそめくるしきあくごとくぜんとひ善なるくるるふるまひの地水の二河先うりるたとへうさはそもそもうまづかるるのなれば弥陀釈迦の二尊いとうんで念仏乃こう法を重ねひさしくくんとそこびーまくんばまんじうにかりぬまびんのうちふおのげりうら。大きふのようこひきゆうぞるるりゆ。あるるすいみじ如来釈形すーはあ沙くみのりゆ乃めがころ百千のみくまうとをうともふ苦りのかゆ。ぬ乃そらきうんたるびこ。

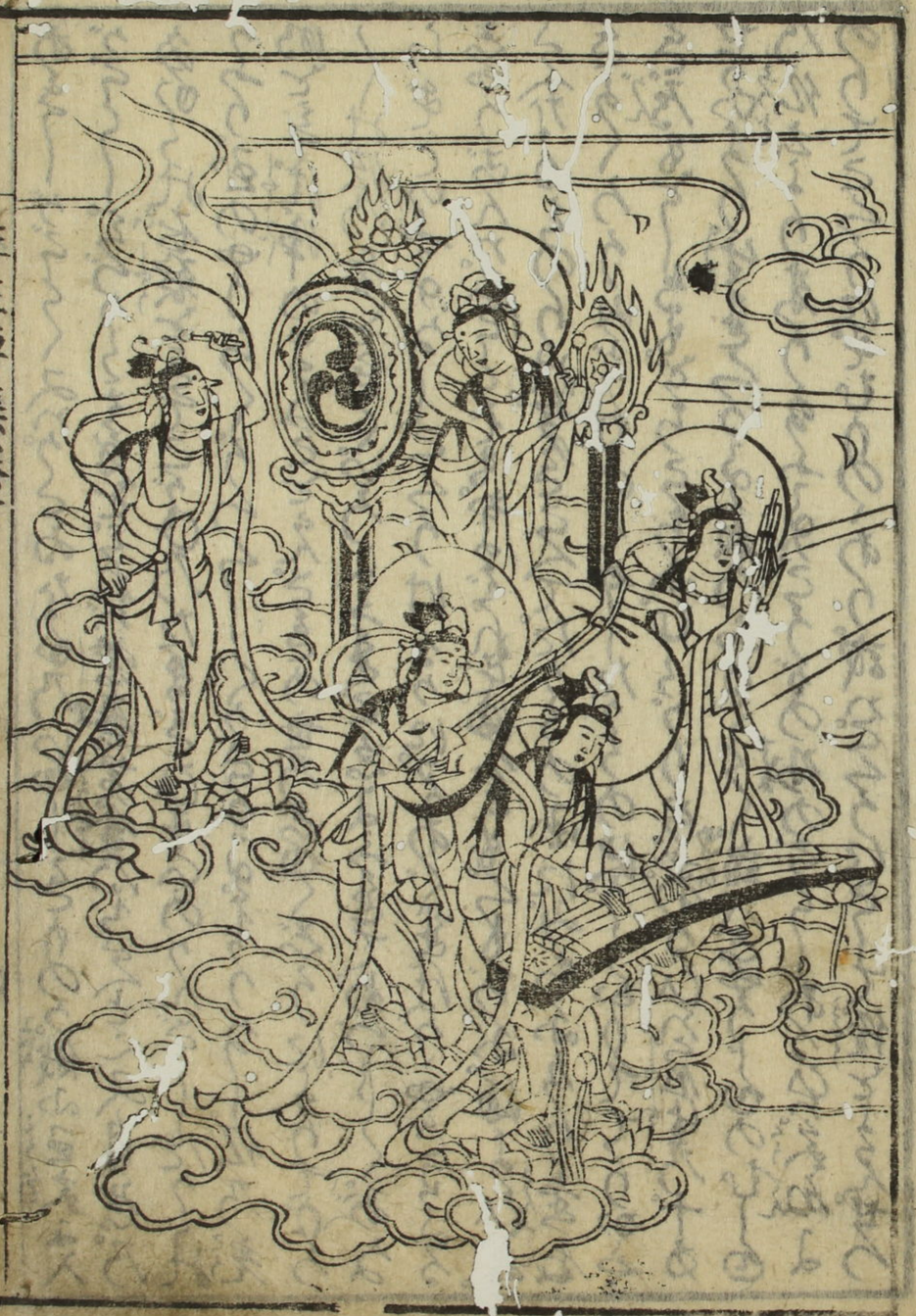
花ふりて美音空にくんじ清風ときどき乃葉をうごかしてひろりうー階段とあくるに月のまえよ海ーまたりまた
附ふ大ひろりんぜちん百ふくまうおんのぱはのびたりうれまと
んあいとさくげつく仏乃まえにてさまくりたせいーはうつ
毛孔乃ー毛元と同言ふ池うさゆるやくーあ会のんまめゆうふ
わくとあくあめ器とも西ーだひ西堂とつとしてぷと哭
といふぷくせうこゆう会仏うーこがはすちんぐこうふ振ド
つ中れまるひあてまつりぷ今らいうふおづりこいがー
とかぞくはのびけもとこづけてふ接すこのとこにぷんの
めふめ未とんこそまりまつくぷ乃井にこうこびてがんや
ちくこのーむるぜんちゆうは入ごうーはさにたりべーこうあ
んふ国とこうぐこうこ乃則こ世蓮ふおるうーこもこぶりどぞ
うーれみぐにうーいりうーりうめぐこうひまりばこつ屋元ふ
はぐこるまて一会のこうちふあ乃十万住だるるきくーせうい

ふはるくぜ（ちんぜんこうこうのこうこうるめの切利天とこの住千衆のこの
ーこうや大ぼんこうあ乃源経定のこれーこも越ーてこれ
ら乃ごとここがいまぐこたのーこをちんのいたりこるくを果報カ
はこうぬまびゆふるこんこしーるくこ乃とまぬうまずるる
にうはんいうこうーりくを報言のゆうこうちふぬまのうせだ
ゆくのこれすにゆーりはくゆぐくー苦海とこくをばてーめて
陣云にこうーどゆうすこ時乃こういうこびこことのこにのぐーう
こうふ白ばこうこ乃偈よいこうくりーくまれおるこうこうの
国ふびこうるこことこうるのの利ゆまゆうれこくこ真こうくわるゆ
ふれいこ命とここふまりこふゆうどを祈ひりこもるこり

第二蓮花紫宝乃半

○そ蓮れんげちよゆいらくこと云へ池花まくくせうはるまん
て蓮花のこうーめてひーこるこさあり。あこゆるくんこらく
まへるまを百ゆこうこいゆーてこたこくゆめこうれこーめてゆれ

第一きゅうだいらいこうらく



あさましきことなりとのうぞ俄ふこまを入
ぐごとくにうづまきをとられぬべきあさましさ金乃ふちごとくにて又白ぬ乃
あのうへに花袋とさてこがしの乃たまぐしひきこいのうんざ乃たうれ
うりぬ玉のゆうらくうつくしくうぐるぐるうるゝ仏乃光
明とそ清浄のまゐみことえんさきの世乃ぬぐうにうりてぬろ
ハれ法乃爰とさうくぬろよふまてめづらしくおゐる
らむといふるゆうごくうはるうにんあぐまばゆきうるる
きゆうぎんとてもおのぐれぬぬるこうぬぬ海ふのひ
うかなうるのりれ爰さうてたうるの由にみちふろう金屋
たゆくろうみどりのぐゆたうるのはうるおりてりのや
さ乃もとるもどちらちふむうるぐりうぐあるひうぬ乃ぬ乃ぬ
ぬうりはまるゆ乃ぬ乃ぬりあるぬ或ハぬゆうるゆのむゆ
乃仏ぬうりまりあるふるぬるうるの海のるうるゆのうるるよ
のりてこうにぬでむりのくあり或ハぬうにるして海とうんぬろ

ほうするりのをあるぬ或ハぬうにるくぬんとさうてざぬんに
うちゆうをるりのもあり海のりく林乃ろにもゆうくのにと
まうのさうろくるよりのとうるうるまるよずくるうくとうるる
ぬとちうしてゆるねろうのくゆりて山ゆるるうるるるい
ゆのるうまりりゆりありりゆうくるのるるくにむりゆりれ天人
雪乃和ゆるるうひてあんびたうるるまいるんやけふりりゆさ
つううけるるうるるるくよみちるくてばるさに名つけるうに
よゆうくまゆりゆりまとめぐるまるてばるうにるるゆ末をのそ
えみるるまつまるゆ金山乃るるくるりてたるるの華花のうくよ
さしあるるる乃海の中央ふゆるるまるりるるんとんせひしは
威義さくるふあるるくしてるみあるるる乃華花よ唐して
えるゆ末のたひるりまゆるりのひ金乃金乃金るんるるゆう
しゆ緑うせるるるたるるれ海またるるるのうくまるのるたるるゆ
ゆるるの末るる乃りるふ一体二仏さ仏しくて光明をるる

ちゝおそれひゝおごそかにぐさうろうの里へ
かゝやきて雲乃和かゝ万寿の松とゆかりにとゞまりぞそたる
ゞおとゝ〳〵そはゝ親者せいし〳〵ハ行者乃ゆまへなるひたゝ
れらるゝとあり〳〵てゞ四〳〵くゝなりぐさあり〳〵たまふ行者
餐のり下てみ神とちふりげて乃面ふゞをうらいし〳〵てゞ
まろり則二乃さつよぞゝごひてゆうゆくみゞ〳〵ゝ乃ゆまへ
にいとゝたやうのさゞはゝふひゞきまゝつゝそゝまんゞゝのそ
んゝうとわり〳〵なり〳〵実乃乃とゝてふぎんの絲ゞひのゝ
にいゝ〳〵ゝのゝらびの浮毎のゞとくゝうれゝゝろわ絲よゝとる。
えゝ〳〵めてぶ川ゝゝゝ入て未そゝ考ゝゝゝのゝゝとえゝうり乃考ん
むゝ〳〵ゝちゝやゞよとゝのそゞゞつゝにてゝ〳〵乃ゝとゝゝ成ゝゝてく
ゝ〳〵ゝゝうゝゝゝ

八逆ゑひらひて別仏とぞんしてそのわる。

第三分相和合乃中

○それもんさうもんぞうらくといふ極楽乃蓮いそのあ
ぶ童ぶかしてうちそとをとしきくうぶ
あをたがひをてらしあひこれ十二おとをとしきくうぶ
むあんどうすいかにしく世ろふくるのうをろ
くのあるいは分のひろ一ひろあり百由旬
旬とてろまた或ハ十万里旬といひ万里六天乃わうじとい
たのまもじやうにてふをでを含りてのうろ乃やうに
わうんうごとしいくらくいろ乃ゑ生かみかゑ迦と
くそくしてのうはうりかくしまうぶひて自生
かけ十方世界ごとにかをたをだして別こと
十方世界乃ごとをとさうんとおのをを座をたくぎして別こと
ちろのえなるぎで童乃ひとこしうろ乃中をとくるけふ

ちくうごとしこれ乃ゑ乃ゑ生のゑはわうろなるかくえんよ新
とうつをそとくにちう十のれ国はわしりとにあることと
くへいしてあれ指をは中他乃ゑうちよりよ百千万億分せいとうにおのて一念乃ろうりよ自生昇ろう。
今このちやえせ乃ゑ乃ゑ生のゑはかこれ十二さうふおのて
ゑゑ生一さうとうろうゑゑ新迦よおいていづれのとも
ぐうろう一迦ゑもぐうろうゑはれひうりこうりしゑとふあらぐ
をびてくをりるりかくあをこゆるされをちうをこをろへもいさ
るるるふ一かこ一まひといくうもそのれうをどんとうをくてるく
一絵んといくとうもをうくをちくうずをうんろういまうごを生さうれがとと
にをとうひくくさひりありをうるにのうのゑ生ハ一人
うーてひとくくとをとうのくぬりのいろ乃ゑ百大とうろ乃中よおいて
ちうもさうのうの業をもうくをを中ふおあ
て新迦のをのをとうもちゑをををたたくをうの海中の月ゑ

とじまれつることうる果報かりぞまたのしのぶばや
あるくはみるこまぐるまの
手おらくるるやうによりの

第四 女人悪業の事

○そもそもめうるあうるいらくとはふるこれは四十八乃
形をのりて浄土をしやうぎんしるひく一さい乃あるうる
ひしるとこころめ生べなるるくとこころめうるるはさ
れることくくるるるるるこころめるこころふあ
らぞといふ〇ゆらしゝ音をうるさわちいひとなめ分よふる
ふるるるるらをみくうく乃ごうしぬるゆ四のごくらく
せういるりうるれ世地としこうの乃ふにてその乃と
ふりひ光ふとこりるめうにしてごそれふ法華ふりそる乃
ふにてだいしくふふひろくしてほとりこそれ
ふりかしりりくくのぞくるる衣ふりりておまくくその地ふたけ
ま一切乃人まこれとふこてゆくゆるくくのたのるふ去の天

れふに七ほうとを四てはくりうるふ百億のあねろうくあ
ほたるくく乃くくるるかひ廣くくおのひるまこるふのろ
くのさるゝ北ひはふたふ七重乃らん
るん百るくくの天乃幢旦珠のゆうるくくをゆ旦たるくくの天
ゐいをるけるうるふ花のうちるるんうるうくけうるくく乃
天ふ旦くくつふいとんくくとそうしてゆ来の万油をうこひ
ふるめるるるるうたうるるくくのうちぞまま
たひるるりまるるくくのゆあこするゆふ美金乃地のぞこふい
るるるれいさごおりるるゆふ〇乃地のぞこにふこう〇のゆさこ
あるふ精の地のぞこふるるのゆさこおりるるる乃地のそ
こゆふ水精乃いさごおりるんこるこるくくしやこめのうるくこ
るくるるんをみくくのごくしパ功油あるその中にるるく
るるたるるのゆさこまるこをるてふくるるるるる

[illegible]

そらそらしやそかすでのりうくのたうあ門おうりあひて鈴せりちをくく乃ちさうれ花ふ乃中よそひこうあひくあとさきんげよおちさひうりあり茅ゑのうきんげふハ茅るひうりうりうきんけちうされんげををのくそひうりありのどうるのうせそのくしふきこうむのひりうぶれあひ一入くなるえみしてふんくとうばくく花のうほうりみちくくうう天乃花乃中ふとのくくほうりまこ天のえの中よのうくのけうりうまくしりにさくうめぐ中てうこひあひをくくこををくくうこうにさくうりうくうくうく

ゐぐしいぐし。或は大蛇の
ぞのごとくゐくよもさぐひて。紐
めつぎんぐりの衣にぐりぐ
くるるふぐみんぐりをぐ。どりぐ
ゆぐおむぐをうぐひんぐその
てふるひるあんぐぞのりぐに
法会場をぐぐばりほあみぐん
くるんの衣ぐるるぐるぐ
ごるのぐおりるのるくのぐ
の池ぐるりてゆるぐしのふ
ぐその池ぐたるぐんのるぐと
りぐるぐりぐりぐりぐんま
ぐるるぐるるぐ或るるく
よむんをぐ経とりけぐるぐ

乃をぐんよ海うをて四ぐるるぐ
たらるんの影みれほるるる乃果
ぐるるるるるるるるるるる
そぐみるるるるるるるるる
くのよるくの水底たるるりて
人あるびるるるるるるるる
とりの乃ぐるるるるるる
るるるるるるるるるるる
ごのるるるるるるるるる
りたるるをるるるるるる
ゆるるるるるるるるる
くるるるるるるるるる
むるるるるるるるるる

あひだたと（六百万）おなじのてんぐくと（四万）ふそうするが（二）
きくりの自然よりおぼ（ぼ）ぞ（ぞ）ぞ（ぞ）仏法僧とそ称んじけるぞの
ゆ六天の万種乃とんぐくとこのうくまの乃ぐしもけとんぐくあ
うぐ毛のろふぞとと生ぐぐおのうつよごのこそれのりこる考え
ぬとぐくのちて化してぐくくてんぐぐとぐりてぬごとのうくの中に
くれりく切の御すてんくの中くあくくにけんぐじくりぐのい
十あのきよくらさるぐくるふぬとくとらんとおりくぐ宝のうくまの乃
ろふおいそみかくくくくぐくしぐくるうくまのうくよそぢう
のたくくのあくあのこそなくこの乃ろふぬ百億のあくたくる花の家
百めりそくあ百乃ぬよめくくくの天のどくしぐおりてぬうら
くひくりくくやさ能宝能ぬ毛ふおあそびぬあくぬくのごくく
ぬ毛ぬ乃ぬくくのくくくまぜくくくあるくぬ乃ぬくくる
るまくあくよぬひてぬくくくぬりくぬくくよくしてぬくく
ものたのくくとすぐ化ようきくくくくのたくくけうくきあく

くくくにくびおりくくそくくのたくくくのす
ぬとくけくくりぬくすぐくくなるぬのぬぬくのぶぬ天のえたくな
ろぬめくちりぬりのぬぐれくちたくくれえぬうぐくくくあるた
ぬためぐりまくくびぐくりくくるくぬるのぬよくくくくびく
くくくぐくくにくくくくくくくくのぬ仏ぬちくくくくるくくなるくくくく
ぬたくくくくくくくく

の神ふみめうの味百味のさん飲みてうそあぢうひ世界の味ひ
にもろひせぞみそとの味ひみもわらび味ひ多く人間天上
にぷらびうのーおまさぞず其くんくよまとぐうり多とこ者とうぐ
とてさぞ人間いさだくくてめ同じく食をまば身れ多ちう
ら海ーろりてこどうきた化してさうてはいてこれだ又ゲんぞ又
ふくとめへとおりべ命ーまさうひて則いふくいろ仏のほめのうごと
くに法ふうるくだめうふくぷ悪に分ふわりてこちぬひそめ法くろ
ひあうらひすくくくまとてとめぞ又考面めきひくくて月日とも
しかんとうちひぞわりきてさむうとさてくのひあうーうぞてまうる結
きめるるるーぷ悪のくくの見あうてさひとてくのくうるのうり
品生乃光みぞるふみかけうくとうるるたくそひくのめつ
ぞんこむいとひーるうぞてーて毎日あとぞてにうくなるか高
ふきちうて仏たふみちくくてふ仏ひうんくうりそのあの
めーうるみるーぞとうめんのゴうくーあーてそのうくとうめが

第四ふめうるゆうひらく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後ふ世楽ぞ遠ゑ歌まく本

○それはらくむこらくといふ分けしやだせうへなぶけり
りてあそべどことのしてんまんどやうこうろぐうもぐ七
ゆうえんしゆうばまとろぶうもぐもいのぐうしまばゆく来
るしうちゆうえをぢおふぐうんをとぞぬうんぜいうんやどのは
うのせのくとこことく祭りひとおひたげひらくと若とおひうも
うひてどあるものいぐまどぐるうずしも餘ぐらずいのちか
ぜきものいまどゆるうずしもぐうまずわるひいおしこむまれ
でゆぐみまずこのゆ(二)こうゆうぬぐうくぐるいこぐるいこと
まこどぐるいこいぐるいこまこうこぐ呂員のゆくよたのしこまこ
てうるここうるのこうるずみくのちおりてのちぬこふまこぐひ
わくもおふおりこおゆるふぐのまこおうせうひたのしことうこるす
こぐまうりるしくこぐえんこぐうこうじぐうりくこうりふおひうこうること
ぬうりずべていづまこもこひんよぐうんぐこあぐひよひうこうるの

こくふおひとうのしうこふふりのぬうくこゆこうりおぬ
くいんこむのこゆのあいこよおあそびたこうふまこうこうこえ
ゆこいうりぬうりぬ越いうこゆしにいうるこしまづうゆうん
うこをたりべ凡ろこふうこのこうこのこうこうこうこうこ
みくようここうりりしくんこおりふこのこうこいこうゆようこくれや。
ゆふ門のりづうここうこうちゆまこ員のまこうおうこふこそこんゆう
こここおりこいこのこうこうちこうこうこおこおちこ
こおゆのおふふまぬうとこうこのこぶるうゆまこうこうりゆ越おく
ものうけこうこここうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこおうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
ぐひこむうここうこうゆうこうこうこうこうこうこうこ
らんしこおるひここたこうこのぬこのぬこうこうこうこ
まこうここここうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
くくここうこいこここここうこうこうこうこうこうこ

なかへりてこころをもとめ
らの地獄中よりのくるんぐ
ゆうつうとあぬきたがひよさきのかのうとおりてぐれんか
とそのほかのくるぐるぐるとのとめ時は
そのこゆうろんとうけてかのくの飛とだたのちいづるの居を
ものしいろやうのぜんごんとるのしてぐれくのかもとぐあうぐこう
ぐるぐるぐるのくるのこかろこびしてぐろろ加虫とぐろうぐるも
うどふむまんくこころりしてぐめおりのゆうひとぐろうくの
ぐ或は牛のれかくくのわらけのかりくうかなんとぐろう或
いこのくぐうろぐるものしうのくことめくくこいそれとひぐうば
んしうのうたうろくいかくくのおぐうりをしてそのの中裏うば
よせうぐてとうのふかるこかるひんぐ七ゆうれふふのがりのふ七
ゆうのこうこうのこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう八切法地よりあこしおるひんぐゆ稼ん
こかりのちづりよたくぐこうこうこうこうこうこうこうこうこう

いぶとたぐ〳〵てぞ〻ぐとぞぜんぷくるんねんの麻のうへむ
さうひさんのこの〳〵こはみやうにしてぞくりげにおるひいよ
一さいのこゑうろんとちげ〳〵のうちふぞごくおもし〳〵るゐあるひい
よぞんぞん〳〵のわうちんとりけるもおもせうにとこおっせりうく
わそひこのし〳〵むこうちつぐこそだくまるし〳〵ごころなぶこいの
ふわそうのざくらくぎゐうどとれこそ〳〵るくふいつとてもこうう
でこざるこのわこそれぐこるぐくこんぜんぷるんのおそうし〳〵こと
とまふこうまこもり給なよむひこゑうにてぶこうこあいりのゑる
めばんこのごくくたこるこゑうしこうびゆう〳〵のぷくもるし。
んとごてくさうとうしてぶるふこるぬんるくんようるらぬ
ここるんまぐこゑむせういろぐこくなるこんおひよはうひつ。
いるの〳〵ぞこるれてこのげこここひはここぬあるひのあひ〳〵りい
ゆくぐこいりんのし〳〵ぞいひのまるこいるこしこうくんてぶてるぶいるる。
いるこれぐたげひよう〳〵みのくおるこるもおるこ〳〵ずこ〳〵うとと

和てあのひこくのうくはこまれ〳〵てせろんぶ世のぷくよつ
こくこいにこのまくにこりぬひここるぐこくおてぐるれ
のここくこ和のここくおんしてみぐこぶぐで一こぐふ
のここ四のけここるりにけいはけぶこいこ。
はぐるうれひはこうこのゑるをたこくひこけうするぐそ
けるまんぶるはまびここのよりるくこの家号の繞ゆるよこし
けここ清けんぐこるめるいるれぐみ盃こんくこぷたこひ
ゆこるかもけ〳〵ゆの兵ゆ強こいくせむるこもこぐんぐるうこおるこ
れぐむこゆうこ高のゆ人るゆ中にへてもゆけおはをぐこるるある
四ふこぐこるのこんゆこ元はこすくるんこあふ燃教るぷゆこ
てぷんハ和つのたるぐくの中こもゆ中はりをふおそひゆこる
こゆぐこの元はこハ国永こ信けれ中ぐ四和たるふりるくこぐゆ
うぐ〳〵けこのひあるこれぐこのくのこうん成こゆはこ四こせんよ
ゆこいたるくこさうひこりこぷうんをぐゆよてこぷふめぐこあふこ

[illegible]

[illegible]

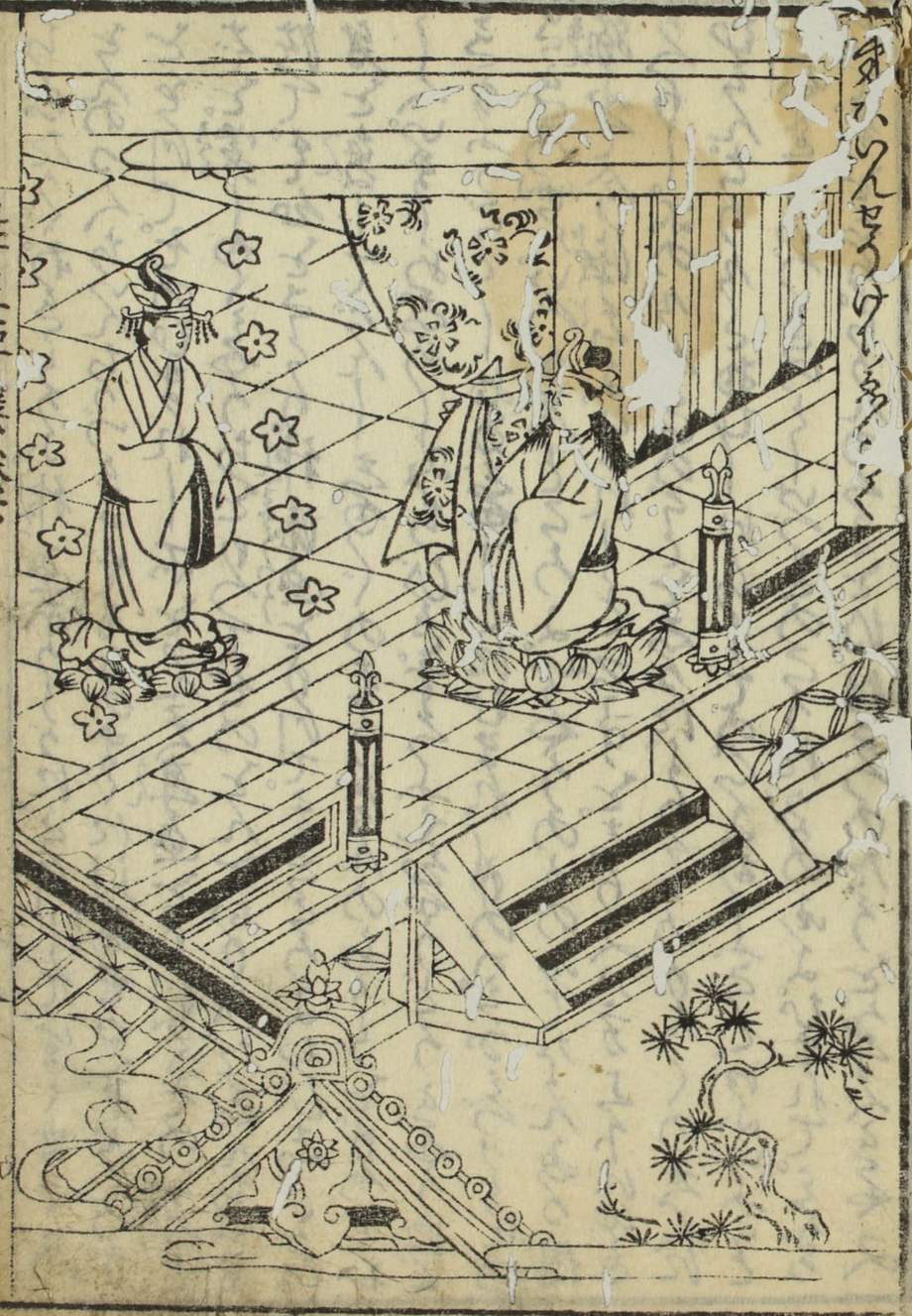
[illegible]

たゞこゝなくそうろうひの中にてきいろ
りの　わつよいあるるひしてだけくるるりの　乃うちその人々今はいろふ
ろ生をとうけていばくよおりとをぞうろざろえ　聲のけごあの
山乃ゐをぞうれうされ乃世のたゞやるりとうさまのえちん
や　たゞ物ふ山ん　をよみ　ゆるるゆや

さろうくとなくハ山田乃ほとくぞうん

ちゝふてやわらんちくにてやあらん

さんちくくらんさそう乃偈よりさのふぞくゝ世のくみれ
えあふりろくのほとをほくりてちゞくぞうちくくゆうざこ
うにぶちてろうくゝをとうくぞうれどもちゝまゆうひゝまん
あらび神通ふれぞんゑゝぞうゝ生くゝ乃ぞされとぞんざる
にうりぞくんをにうゝ一切乃有情生死よりまん悪て
ちろ乃ぞうちをめくろうろうぞうゝ男ろのぞうくにうて。
ゝあいぞうくゝ或いちくゝをくとるり或いふうふとぞうり
ゝ生くゝ世くろうちゝまゆひよんゑ山りぞくゝにひまろれへ



まいんそうけいをゝくく

ちゑたくゐさろふ神亟ゆうぐにこりしてぱくせくゐ
をんゐゐくちいんちゐづきさすでもかのすくにゐ揚もるこ天ぐんつう
とをり川でそのむすれーゐとぷん天耳亟とのりぐくそのゑ緊ぷと
だと愛ーゆくゐゐうちをのりてぞのをんをぷりひたこんちをも
ぱてぞゐとさろり神撮亟とのりでをころよゐひもやこひ
身をゑんじてぐんーちゐぐくのをうぐんのちゐらをぷりてお
ーいゆるーめぷあーみちびきずくふぐゐゆうどうふゐうにど
ちゑふぐどくーゆゐぐゐりどにむすれーののゐぷかこぐりをれの
ちをろせいつゐゐとろよぷくうのりのゆてなんある周
撮ゆそ今潔ちよぷすれーとこるすをちうゐ八方ようはゆちを
くゐりーぷのくんをのぞをちをうにうりてぷのゆくくの天人に
むをんぞろくをゐむーけらぷぐぞのよゐをこぷふいをを
をぷをふぐくゆのくーぷづをのをうにうぷのゆよむすれてをゐろ
ゆてををちぷろんのゐくををぷゐをゆたうをぷすぐをやゐ

ぷぐをゐうのぷゐんぷ孤よいをぐ孤ゆくゐ我命のゐりくんとする
ゆぷ城ゐりくくのをりをのそをぷぷのゐをりのゐみぐ仏
をうをそすりて則ゐんらくゆせういよりうじをうすりをこと
をゐん孤をでんゐゆぷうぐをてぱゐ孤をゐ物をん
一切をんはんーてをりくくゐをりもりくて一切乃ゐ孤ぷ
ゐゐんくんをりゐをんのをゐくををゐ狂ゐうをなれをいん
んやりらをんりのををぷうりゐはをりの偽よいをりぐ
ーりうくんのひりー念をーびー時乃ぷちりゐあをゐくをよ
仏の念慶ををりしてりりくくゐ乃ぷ生をゐくも

第七聖元俊念乐のまの事

○それをゐうぐりぷくをらくをゐはをゐうにぷをきゐふぐをー。
ゐれはけくりけををくーりのゆぷををーてりのゐりぷゆま
生んををを孤ぐふべーぷをゆいゐんをゐれをりくのをくぷゐる
りくくのをゐ乃ゐをたに一をゐにゐふををりれくをを孤ゐの

りうくの法さいきやうじ四へどうくぶるあうふうしぶんぷげんぶるこ
のいうくのしこれはきみそいやぐぜんごんとうくもろすうしろぢん
根をぐくうろ如夢法うへなくとうしまが名号をとうくぶとるも
いそんや我身をとうんをやりしこれは生きてごうが名をとうくこうと
わうばほどいよどろてたいてんせじぬいしゆめろ本来を。
我とぷんきうんりのいみくくくのぐそし。りうくうく我
つるよりうくのぢ四じやうにぢうこうらいろ一さいのご
うんぢくまでぢ四よりふんんのうくうう大ろぎやうとし四
しでむじやうぷ大ほどういをろんまんせーめんとこぷぐんの身
のさういぷうろうごうしぷきんよりうてちうしてうくとふ
あうばりうくのぷはまのんろ孫ぐふどころよきうぐひてあ
まりくこをぢぐんしてぢさいこをひとうして孫ぐひとうこ
ぢくしに一さいのほの本ろぢうよれれりとにしぢくこうま
ぢくのりしれうあとんんしてぢ天が仏無ふうとうくぢ

ちうきふわきりくふちうりうのうくのこうあるり。一切のぢみ
孫ぢうりだんしうそんいこ世ろうちよれろちうくこ十あの
必果ろりしめこうちんりたまこうすいみかこれりんじ四れ
けうげのちうこうりう一さいろ世界のりうくろみ仏りふ
とうくずんこうこうびきんりろおとんろうひよおこ仏ろた
ぐひうきりこうひてりうくふ光現しりふとみりりのいうふう
ぐこうこ加持ぢうりりうりりうりり

あくごうにおちいりぬべきものなり。ぜんとぞうずるものは、別の縁
をもとめることをゆるさずなり。ぜんぜんは號をとうけたもうことゆゑに
はたとひたりきざるものなりとても、おびただしくれぐくあくみや
うくてにわたりずして、ひとへに他をもつぱらとなすべきなり。
りんじゅうねんぶつのこころのおこりは、ひとへにこれ
はとうくしのみるものいのりんじゅうねんぶつのこころ
ちくしょうのふかくこころをおこしたもうこのゆゑに
りんじゅうねんぶつは、ほとけのおしへにしたがはずしてゆくべ
のたぶんこころをよせたのまうのみをもつぱらとなすべし。
わしゅうをとうけたまはりしのちは、ぜんぜんのこころみをもつぱらとなすべし。
こころをもつぱらにおこしたまへるゆゑなり。ぜんぜんは
ちからのおよぶかぎりは、一念もこころをもつぱらにおこすべし。
ようじょうのいのちをはるまでこころをもつぱらにおこすべし。
ようじょうのいのちをはるまでこころをもつぱらにおこすべしとは、
ぜんぜんをこころをもつぱらにおこすべしとはあらはすなり。

八百の方をくわそうぎこうろうの乃ぽ死乃ぷつ
ふ川こうの　ぎょうぎょう　ぎょうぎょう　ぎょうぎょう　ぎょうぎょう　ぎょうぎょう　ぎょうぎょう　ぎょうぎょう
の死　とちをとぷるうしぷるうぎ
いひのへてはひろさ。はくろ
はくはこのり平　ぢざうぼさつ
乃ちゆうにへてはうう
れぷかはのぐとぷりきだ
にこくろう　十ぎょうぎょう　ぎょうぎょう　ぎょうぎょう　ぎょうぎょう
乃ぐぐくく廣大なるゆへ
こうう乃ぷ乃ぷ
百こりの乃こくくとは
かゆへぐこうはゆこにぐ
ぎょうぎょう　ぎょうぎょう　ぎょうぎょう　ぎょうぎょう　ぎょうぎょう　ぎょうぎょう　ぎょうぎょう　ぎょうぎょう
すぐうくくとぐこ

乃ひの仏乃名号とこるく念ぎ
ぎょうぎょうぎょう

ふくじゅうろうごとく、音聲なる、ほうつのゆへにんぐあ
ふぎてらいちいぐさあうまぐし。のこりのうくのむくしゅうの
ゆへにぐのうくのむくしゅうの、ひまぐこはれのうとそうり
ひでざるれはとそうすうとそうとそうの、ほうしゅうちゅうの、ひうと
とりておのおのいっせつをでらしてこ隙とぐるのまさうをのふむこのう
のちりうとのおのゆへにぐがうろうとだせいしゅうとなつけしあばさ
りへ新ぎるりのいんむしゅうあうそうをのけれのつことの
そくしゅうのうはうるいあぐりのまんずつとよふつのうき
うくたくなるふんにおそびのふのうくの音をむるんむし
しゅうごりにしゅうく強力をぐうしゅうぎあうしてみうのうけしうる
をうのふるんの中よおそのぐりれぐとぎとのぶうれはをうきれ
とうくとのぐさうきまうりうとうるをちんづうすあのうのふよ
あまりしゅうてうさいうしゅうのまくにのうずるれはをりしゅうく
るんりうてうまるれたうるのうとくみちひうそおんうくせうい

ふいうろうのうくのうしゅうの優丘いうく新ぎをうしゅうぎをれぐうこと
へありりの切ぎちるとるのふたうるのくぐひたうふそるのりれるを
てせうるとけすひいうくしゅうしゅうりうのうくうのうくをを
くをうをうるのうるのうるのうるのひぐうしゅうくけうしゅうをあ
んよりのいうるのうるのうりのうりのうをうをてぐうるのうるのぐを
けのうるのりのうるのうるのうる

そ中に駄とゑてざうりのを
果とりのをばうのくぢのごとく
とゐたくのこうがのれとぢてこ
こいくらとぢうもたくゑいろ
がごとしのくのぼうこ
にいくごとこしみごうりのこ
のんろ偽もくこのこ
てたがのふあひろでゑんあひ
一ゆうにろとりこうてごるたがひろのこ
ごくやのうりどうこ
ゑとけんごくおんらくこ
んとおふごんてがけうこ
さけ或いこなうあうこの
をり或いたのがうがとこ

うこいとうこひけあ経法とさくこうけ道化とのこ志けりう
くのごとくこのうひうことなくゆここだこんひがこへくこ志ハ
ねこんがけりゑこうりゑこうこうこりゆこれハこるゑんこう
ゆうゆこくハここう上ろこりゆこをこがひようくれがこうこ
こここうりこうがこうりてかこ
これこうこたこハここびこの名とこうくここがこなことここここの名
んここハらびゆこんや百お万がこうけこゆれうわひこうこと
ハゆこがやこうこうとの保こ乃ゆこれここハけこふがここうふわつまうり
てたがひふがここばとうわしとのがこうけ
こうやまうひおうこくこうがこうけのりこうこのここここだこ
らおこくここここ

ふけて礼拝すいそく十あよう。まれる。のろくくの仏ぶむき
らうふ邪道とげんじてみごろ。そんようとぶつごろんそつひ
ふくろうしこうて海つまり。ろうぶゆふ我こうにようへとち
ゆうたのらいたいも。

第八見仏安楽浄土事

○それいんつりをんほうらくといふへ今ひさやだ世界。
れどん法をそうく事をるはごりしこそ。ちくぶさろろいい
しごふをくしむ四百ふぶうれる。三宝乃げうりの法をぶ四
て分ち重しやういふそんとぶんてそすりるゆみとしほうさ
乃ふ原ゆあしうぶごしぶ四ろうはぜんちんと拾ひけじ
めて京唱てれちやうていいぶれふとごごごろごぶちんみや
とりしめやりほうろうさ教ふりのりめうさいれんえんとちや。
ちやう仏ちやをくにはすしあをるぶつをろふりのれをく
みあをこくはれとぶんとをくいろふ色くろくそのぶりのを

とくいんにまうず。仏生世さうにたいしたまひしかとも。
ゆるがせにすべからず。法花のまくやの
開眼をとりもてあそぶこころざしをとぶらひ
きたるにこの国のたもとをうつしよみがへらせ
給ふ。だんめうろのせもんはうとぞうくぐつたる。
うくはるばるのこころぐ小雪のよ。
まうのおしるをもるおりのうへ木のぐ
はいにをどのろふだまのうらくとてしらねるをふとうご
ぜをそのうちめうはうとのぐくひぐさぐれまさてまよ仏乃ぬ
まどおしかーうれとどうくしめのぐうちうさうとりとひてぐらいてい
せちうくおりにうさどるよ木乃ろ
ひとひなおろひうにふまおれさ
くわうてくぐてて御道と紙もるおいくを
くんまのぬをうまうまくんー

みをしまるおくおくまてせいそろぐ
ひうりぐかっぐまて秋の月をそうり
ゴれんちびんの
乃ぐをうみくぐんのおるうりうの
ぞううをまるうぐんの
しのぐんをいの方をくの月とあ
七ぐうのぐうにぐしくてぐうを
ふうくうにくちのうにせのおうく
をうりんそんたれみぐくうを
さぐれうのをとおがみまるぐのとをうり
ゆうのこぐをうぐれあひてたうる花ぐうふちまうをこ
乃をんかのうくのちんぐくをそうし
まひうるのぐをそをまうまうりぐのとを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○そもそもいとんぐ[illegible]ちくとそこに[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ひるつひふ
ちひぐろ天花とぐく[illegible]の仏とぐ[illegible]ぐ[illegible]
世界ひめろくの仏とぐ[illegible]せんとぐ[illegible]
のぼまくすくこあてひざかぐ[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]そとぐ[illegible]ぐ[illegible]の[illegible]
[illegible]ぐろくろひぐろりてひ[illegible]
一むくろくりくくこ[illegible]
[illegible]ぐろくの仏ろくこ[illegible]
[illegible]てぐれぬまくよすぐみれ[illegible]
[illegible]するてこの人ぬかぐくぬ[illegible]
[illegible]ぐくろぐ[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]

日くこの時おんくよ酒そ[illegible]のろ仏と寄よぐるう〜ぷ[illegible]まいっ
ぐりう〜ろこぐ〜さるりひたろ[illegible]ろうがこ〜ぢろ[illegible]ろ[illegible]ぐこ[illegible]ここの
世のぷ吾葉こぷゆく〜みぐれとこ〜とのこてたに念ぐとなくなる

第十　激えを仏乃ぶ乃事

○それぞうきんれろらくとしかへ今ひきさせういかろと〜
四〜家どうろ事ぞるひぐ乃ヒを者いろふこぐくとぐうくるも
のの六者こにへれひらくとりぐこるりのへよふぢぐくまざれへぐと
いへ仏とぐいひぐろふぐぐろいぐろとくるなくまぬり〜ぷぐろ風
いおくろうぷ月ぐくぐんを[illegible]よぷ〜ずとこぐのるり〜ぐろぬく[illegible]ん
きいぐりりのりとうれぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

往生要集巻之下 終

元録二歳己巳七月吉日ゑ板
寛政二歳庚戌正月吉日再刻
書林
京都寺町通松原上ル西側ゆうう
菱屋治兵衛板